

あなたもお読みください
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

日刊 1カ月 3,497円
日曜版1カ月 823円

手良民報

生活相談はお気軽に
電話 78-0943 (高橋)
08051428896 (大場美広)

(毎月赤旗読者に配達)

(民報のみは月100円)
発行 日本共産党・手良支部

大きな事故もなく

交通安全協会の定期総会行われる

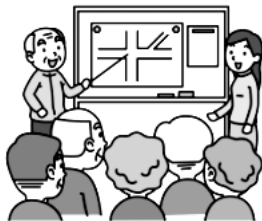
手良交通安全協会の定期総会が3月7日に手良公民館講堂で行われ役員など約40名が出席しました。

蟹澤折男会長よりは手良地区はこの一年重大事故がなかった、農免道路は自動車スピードを上げ危険であるので信号機の設置や一旦停止など早目に手を打ってほしい、手良はシートベルトの着用率が市の平均より低いので着用の向上を図ってほしいなどのあいさつがありました。

総会では小学校交通安全教室・保育園交通安全教室・高齢者交通安全講習会・おはよう自転車教室開催、白線引き・カーブミラー清掃カーブミラー修理、シートベルト・チャイルドシート着用調査実施など平成26年度の事業報告と収支決算、平成27年度の事業計画と収支予算書が承認されました。

また、手良地区内での平成26年度の交通事故は昨年よりは減少して16件発生し、交差点での出会い頭事故は7件と多く、年齢では60歳代が5件と多くなっています。

特徴としては信号機のない交差点での発生が高い、農道での事故発生率が約45%、事故原因の大半が安全不確認によるもの、50歳以上の事故当事者率が高いといわれています。



日本国憲法第九条

戦争の放棄、戦力

おのゝ交戦権の否認

① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実にこれを希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達する

よしのる通信 13
ため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

いま、全国にこの憲法第

九条を守る会が7,000以上つくられているそうです。もちろんここ手良にも私の住んでいる高遠にも。

この会には、日本共産党だけでなく、自民党や公明党、民主党や社民党など、色々な党の支持者の方々も参加しています。そのくらい「九条」は皆にとって大事な宝物だと思います。

逆らえず、口を閉ざしてし

なだけに、なぜ安倍晋三は憲法を無視して「戦争立法」を作れるのでしょうか。本当にでたらめな国になってしまいませんか。

昨年未の総選挙で当選した国会議員の多くは一言も「日本を海外で戦争できる国にする」などと言っています。彼らとて、そのことを十分自覚しているはず

です。しかし、国会で巨大与党となり、権力の中枢が声高に軍国化に突き進む異常に逆らえず、口を閉ざしてし

「伊那ジビエ手良」発足

本紙(2014.5.4号)

でもお知らせしましたが、

伊那猟友会手良支部が実施主体となり県の「地域発元気づくり支援事業」と市の「自然の恵み伊那ジビエ利用促進事業」により野生獣肉解体処理施設「伊那ジビエ手良」を3月に開設し、4月より正式に発足します。

場所は中坪日向の伊那猟友会手良支部長登内里さんが経営する農事組合法人「中坪ノース」の施設の一角を改修。総事業費360万円余、施設規模約50



伊那ジビエ手良

m。野生獣は年間約120頭捕獲されますが約100頭の鹿・猪・熊を解体、食肉処理し冷凍真空パックで販売します。

てらのさと

獣肉解体処理施設「伊那ジビエ手良」が2月に開設され4月より正式に発足する。ニホンジカやイノシシなど野生鳥獣による農作物などの被害は大きく、野生鳥獣を適正な生息数に保持するために狩猟などで個体調整を行っている。手良では年間120頭位捕獲しているようである。しかし、依然として被害は減っていないらしい▼それはさておき、今は捕獲した鳥獣の一部は猟友会員が自家消費などしていたが大部分は穴を掘り埋没処理されていた▼それを今度は伊那猟友会手良支部が主体となって県や市の事業の補助金を活用して解体処理をし食用として活用する。伊那市にはこのような施設はなく、手良が初めてのようである。捕獲された多くの鳥獣も浮かばれることだろう▼鹿肉は珍味でもあり、高たんぱくで低脂肪、コレステロールも低いヘルシーな肉のようである。鹿肉は冷凍真空パックで一般にも販売するらしい。これからは、学校給食へ食材として鹿肉を使用した献立を提供し、子ども達にも受け入れられるジビエ献立を通し、率先した食育にも取り組んでいきたいと未来への展望も抱いている▼鳥獣の安定的な確保、食品の販路、捕獲時の鳥獣の処理などいろいろ課題は多いと思われが健闘を祈りたい。



大場美広

歴史を見直し考える

①その2 ④

第四章 水呑み貧農の誤り

前回は、能登の時国家が単なる豪農ではなく、廻船業を営む大商人でもあったというところを紹介しました。

驚くのはそれだけではありませぬ。この時国家がときには百両の借金をしたことがありました。

を援助したのが、柴草屋といつ屋号を持つ廻船商人だったのですが、何と彼は検地帳上ではほんのわずかな土

生活雑記

132

声

小松利江

面白いことに気がついた。あれ、今日はまだ自分の声をきいていないなあ。

一人暮らしとはこういうことか、淋しいもんだねえ、おじいさんよ、心の中で話し掛けてみたが声は返ってこないのはなかった。

朝のお茶や、ご飯を供えるとき、音はするし、空気は動く、ああ今日も元気で一日が始まっているんだなあ

地しか無い水呑み百姓だったのです。加賀前田藩では、水呑みのことを「頭振（あたまふり）」と呼んでいま

たが、その頭振が実は裕福な廻船商人だったという事実を文書によって確認した網野氏は目を見張り驚愕したと言います。

も、いわゆる襖の下張りに使われた文書から、このよ

うな無高の百姓が実は廻船業に従事した豊かな商人であったことを次々と突きとめました。

と、納得する。

ついで、数日前まで一緒に暮らしていた甥が帰っていったので急に寂しくなってきたので急病みたくなった朝はうつ病みたくなった

しまった。これから、この暮らしが続くのかと思うと気が抜け落ちてゆく。

過去ばかりがやたら懐かしくなる、ああ嫌だと思っ

た瞬間、大きな声を出してこの声が自分の声か叫びか

分からなけれど安心した。何だかお腹がすいた、ご飯が食べたくなった。味噌汁も目玉焼きも、お魚も、

これらの頭振の多くは実際にはかなりの裕福な商工業者であったればこそ、その負担に耐えられるだけの経済的な実力を持っていたので

した。したがって彼らは農村ではなく、港町に住む村ではなく、

網野氏は、能登だけでなく、瀬戸内海の島々や沿岸、和歌山の海辺の村々も同じことが言える指摘しています。

念的に、水呑みは貧しい農民だと思ひこみ、全国一律に検地帳上の土地所有高で豊かさを測ったり、農村は自給自足が原則だったなどと信じてきたのかも知れ

たいよつと、

声を出して自分自身に訴えてみた。空しいだけ何にも出て来ない、こんなこと当たり前のことなのに、甘えてみたかった。

そう、一人暮らしという現実、すべて自分でするしかないんだよ、心得ておきなさいと我が身を引き締めて、ヨロヨロと立ちあがった。

甥が学校に通った二年間はこんな情けない朝は一度もなかったのに、母性本能が消滅してしまっらしい。

三度の食事も面倒臭い、料理なんてつくらない、これから思い切りグウタラ生

せん。しかし本当のところは、江戸時代を通じて様々な物産が広く取引され、陸運・開運が発展し、貨幣経済は農村にも浸透し、民衆は表向き百姓・農民であっても、多様な職業に従事していたのでした。

その傾向は幕末に行くほど強くなります。

日本は瑞穂の国稲作農業が唯一の基幹産業、民衆の殆どは百姓・農民、という「常識」を一度疑って見ることが必要なのだから歴史家はすまぬから世を去ったのでした。(終)

(北原 明)



「地名調査」の報告会

下手良地区

伊那市がすすめている「地名調査」の報告会が2月24日に伊那市役所で行われました。

下手良地区では各公民館に「調査グループ」を作って地名調査を行い、すでに中坪地区は市でも発表して

おり、今回は市内4地区のうち下手良では下手良地区が発表しました。

下手良地区の報告は、4常会の名前の由来では、「堀之内」は中世において

外敵の侵入から守るための城砦があったことをとどめる名称、「中村」はその地域の中心となる、あるいは中央に位置するという意味

の名称、「辻」は街道が交わる場所から、「狸台」は日本武命(やまとたけるのみこと)が東征の折ここに立ち寄り、高台にあって東征軍や土地の人々と「まみえた(謁見した)」こと

からこの名が付けられたなどの報告がありました。

俳句 春の土手 小松利江



絵手紙の水仙めくし寒見舞い雪とけて野を追つ子等の声高く地下足袋の底のぬくもり春の土手初孫にメールで送る寒の月大あくび木の芽おこしか今日の雨



(おねがい) 身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思ひます。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。 七八一〇九四三 高橋

中坪公民館で絵手紙教室やっています



向山光子

連絡先 高橋 7810943

社会保障の学習会

野口高齢者クラブ

野口高齢者クラブ(片桐辰雄会長・会員87名)は2月19日に野口公民館で社会保障の学習会を開催し、会員約30人が参加しました。

年金は下がり4月から介護保険料や高齢者医療保険料が上がり、「老人は早く死ぬ」ということか」という声が上がると、それでは高齢者の暮らしに直結する社会保障や年金、税金をもっと知ろうと開いたもの。

市の高齢者福祉課から職員が2人見えて介護保険制度などについて説明しました。

参加者からは質問も出され納付出来ない人もいました。が考えるきっかけができて良かったという意見がありました。

小学校で感謝の会

3月3日、手良小学校において子ども安全見まもり隊と読み聞かせボランティアの会への感謝の会が開かれました。

校長先生、手良区長、PTA会長からのあいさつのもと6年生から感謝のこ

とば、そして子どもたちの歌の発表がありました。あと、二つの会に分かれて懇談がありました。読み聞かせボランティアの会ではそれぞれ子ども達に読み聞かせをしている実際をお互い発表し合い研修の場となりました。

おはなしかい

手良図書館

手良図書館の「おはなしかい」は3月14日の午前中に行われ子ども達9名が親と一緒に参加しました。

ボランティア4名のみなさんにより「はるがきた」を「たぬき」で歌ったり、「はるのたのたんぽぽ」の紙芝居を観、「はじめまして」などの絵本の読み聞かせ、熊さんのむいぐるみを使って「くまさんのおでかけ」のお話をしました。

又、牛乳パックでコマを作る工作も、子ども達は大喜びでした。

おはなしかいは毎月1回、午前中の10時30分から11時30分に行い4月は18日に予定しています。

